

2010 年度 国際陸上掘削計画上級委員会出席報告

Report of 2010 Executive Committee of International Continental Scientific Drilling Program (ICDP)

日米独をはじめとする 16 カ国と 2 つの機関の代表が顔を揃え、5 月 10 日・と 11 日の二日にかけて、フィンランドのヘルシンキにおいて、フィンランド地質調査所の I.K.Kukkonen さんのホストによる上級委員会が開催された。この委員会の目的は、下部委員会に相当する Science Advisory Group (SAG) から提案された proposal について、科学的評価以外の要素、例えば財政及びその他の要素から実施の可能性等を勘案し、年度の計画を最終決定組織である理事会 (Board of Governer) へ提案することを目的としている。

SAG の審査をクリアした掘削提案である full proposal 6 件と full proposal の為の workshop proposal 11 件が今回審議された。結果としては日本から提案された Coral Reef Okinawa 等を含む 5 件の full proposal と 4 件の workshop proposal が受理された。日本の研究者から提案された proposal の多くは受理されたが、阿蘇カルデラの workshop 提案は類似のイタリアの掘削提案が先行してあった為今回は reject された。

現在の ICDP は総じて活発に機能している国際プログラムとの評価を受けており、多彩な研究提案がなされている。これを支える参加国の数や貢献額は増加しているが、総じて個々の研究課題への資金配分は減少する傾向にある。なお、7 月 21 日と 22 日に中国・北京で理事会が開催され、2010 年度の計画が最終承認され、同年度の計画が開始する。

今後日本で ICDP の掘削科学を効果的に推進するためには、

- 1) 従来のようにはじめから終わりまで科学研究計画ではなく、熱水発電やそれ以外の産業が絡む掘削計画のうち、研究開発の部分を切り分けて ICDP へ提案する等の産学協力のバリアフリーの掘削計画を提案
- 2) 統合国際深海掘削計画 (IODP) との連携した研究課題の新たな提案や、社会貢献を全面に押し出す等の掘削提案 等

すこし頭を柔らかくした掘削提案も考えるべきであろう。

(文責 東 垣)